

《薬局サーベイランスコメント》

『第5週のインフルエンザの推定患者数は約168万人と減少、流行のピークは過ぎ去りつつあるが、まだ患者数の多い状態は継続』

2019年2月5日

済生会中津病院感染管理室

安井 良則

今シーズン（2018/2019年シーズン）の2019年第5週（1月28～2月3日）のインフルエンザの推定患者数は、1,678,217と過去最多であった前週の値（2,228,130）よりも減少しました（図1）。週明けの第6週の月曜日（2019年2月4日）の推定患者数は289,833と前週の月曜日の値（435,950）を下回っていて、第6週（2月4日～10日）の患者数は更に減少していくものと予想されます。

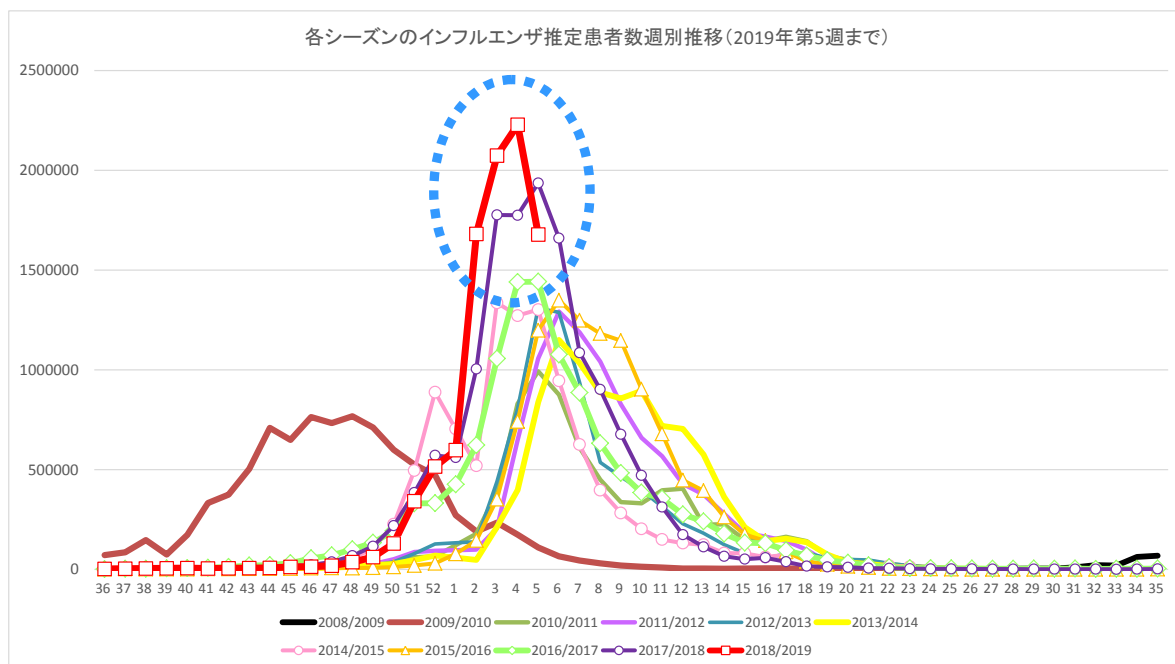


図1. 過去10シーズンと今シーズン（2018/2019年シーズン）の第36～第5週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移（2019年第5週の推定患者数：1,678,217）

各都道府県別の第4週の人口1万人当たりの1週間の推定受診者数をみると福井県、秋田県、栃木県、北海道、大分県、奈良県、三重県の順となっており、山梨県を除く46都道府県で前週よりも減少が見られました。

2018年第36週から2019年第5週までの累積の推定患者数は9,432,850であり、2018年10月1日現在の人口統計を元にした累積罹患率は7.44%でした。年齢群別での累積

罹患率は5～9歳(24.75%)、10～14歳(18.22%)、0～4歳(17.02%)、15～19歳(9.93%)、30～39歳(7.82%)、20～29歳(7.53%)、40～49歳(6.99%)、50～59歳(5.68%)の順となっていて、例年に比べると成人層の罹患率が高い状態が続いています(図2)。

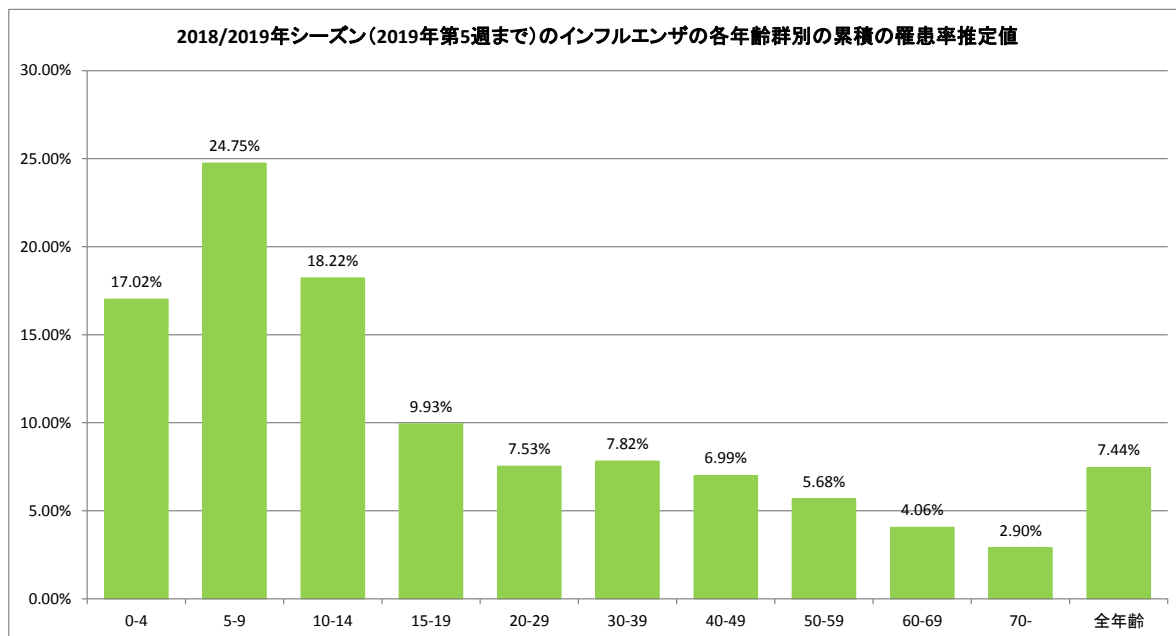


図2. 各年齢群のインフルエンザ累積罹患率の推定値(2018年第36～2019年第5週、累積推定患者数=9,432,850)

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr.html>)によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス(1,485検体解析)は、A/H1pdmが61.8%と多く、次いでA/H3(A香港)亜型36.7%、B型1.5%の順となっている一方、1月に入ってからではA/H3(A香港)亜型の検出数が半数以上を占めています。

2019年第5週の推定患者数は約168万人と減少に転じ、インフルエンザの流行はピークを過ぎ去りつつあると考えられます。一方、今シーズンの流行規模は既に大きなものとなりつつあり、患者数の多い状態はまだ継続しています。まだしばらくはインフルエンザの流行には警戒が必要です。